從軍行

夏目漱石

青空文庫

一

吾に讎あり、艨艟吼ゆる、
　讎はゆるすな、男兒の意氣。
吾に讎あり、貔貅群がる、
　讎は逃すな、勇士の膽。
色は濃き血か、扶桑の旗は、
　讎を照さず、殺氣こめて。

二

天子の命ぞ、吾讎撃つは、
　臣子の分ぞ、遠く赴く。
百里を行けど、敢て歸らず、
　千里二千里、勝つことを期す。
粲たる七斗は、御空のあなた、

傲る吾儘、北方にあり。

三

天に誓へば、岩をも透す、
聞くや三尺、鞘走る音。
寒光熱して、吹くは碧血、
骨を掠めて、戞として鳴る。
折れぬ此太刀、儘を斬る太刀、
のり飲む太刀か、血に渇く太刀。

四

空を拍つ浪、浪消す烟、
腥さき世に、あるは幻影（まぼろし）。
さと閃めくは、罪の稲妻、
暗く揺くは、呪ひの信旗。

深し死の影、我を包みて、
寒し血の雨、我に濺ぐ。

五

殷たる砲聲、神代に響きて、
萬古の雪を、今捲き落す。
鬼とも見えて、焔吐くべく、
劍(つるぎ)に倚りて、眥(まなじり)裂けば、
胡山のふゞき、黒き方より、
鋲騎十萬、※として來る。

六

見よ兵等(つはもの)、われの心は、
猛き心ぞ、蹄(ひづめ)を薙ぎて。
聞けや殿原、これの命(いのち)は、

棄てぬ命ぞ、弾丸(たま)を潜りて。
天上天下、敵あらばあれ、
敵ある方に、向ふ武士(もののふ)。

七

戰やまん、吾武揚らん、
傲る吾讎、茲に亡びん。
東海日出で、高く昇らん、
天下明か、春風吹かん。
瑞穗の國に、瑞穗の國を、
守る神あり、八百萬神。

――明治三十七年五月十日『帝國文學』――

青空文庫情報

底本：「漱石全集　第十二巻　初期の文章及詩歌俳句」岩波書店
　　1967（昭和42）年3月30日発行
初出：「帝国文学」
　　1904（明治37）年5月10日
入力：フクポー
校正：きゅうり
2019年12月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

従軍行

夏目漱石

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/